

## 5. コロンビアの体質 10

## おもてなしの親切

「コロンビア人がスペインから引き継いでいる好ましい伝統的高貴な習慣の一つに《歓迎、温かく迎えること》がある。とくに外国人に対して好意的に受け入れる精神的な一面がそうである。それは外国人に満足を与えると同時に、コロンビア人自身もまた、気持ちの上で満足しているのである。<sup>(1)</sup>」

コロンビア人の家を訪ねると、「入れよ、よく来た、くつろいでね」と、例外なく彼らは言う。とにかく自分の住まいに連れて行くのが常である。普通の一般家庭でも、少し低所得階層の「大衆的」家庭であっても、彼らは家の中のすべてを見せながら案内し、食事の時間外でも「食べていけよ」と誘う。提供する食事は決してご馳走とか特別なモノではない。

筆者は留学時代、知人の家を訪ねた。出された食事は、ジャガイモと油ご飯（コロンビアでは米を炊く場合、塩とオイルを入れる）だけであったが、その味はいまだに忘れない。多くの外国人にとって「居心地の良い」国、それがコロンビアである。  
\*ネガティブなイメージとのギャップ

「コロンビア人は歴史的には地域の違い、社会不安、政治的分裂（保守党と自由党の抗争など）の中を生きてきたが、外国人に対しては歓待を示す。<sup>(2)</sup>」

21世紀に入っても、いまだコロンビアのイメージは世界ではあまりよくない。それはいわずもがな、1950年代前後の「バイオレンス時代」や80年代～90年代の麻薬抗争やゲリラ、パラミタリー（右翼武装組織）という「バイオレンス国家」という過去の歴史からのイメージがあり、恐ろしい国（治安が悪い）の一つとして知られているからである。だからこそ、外国人はこの厚い歓待、友情に出会うと面くらう。その意外性も手伝ってか、外国人も現地の人に同化して楽しむことが出来る国なのである。  
\*受け入れ

コロンビアは海外からの難民にも寛大である。数年前から治安の悪さで国外へ難民が流失しているハイチに対してもそうだ。とりわけ2021年2月のモイーズ大統領暗殺以来、特にコロンビアはハイチからの難民を受け入れている。ハイチの難民たちは、コロンビアを通り、エクアドルもしくはパナマから米国を目指しているが、果たして米国が移民を受け入れるかどうか……。

同じく2021年8月、タリバンが新政権を取ったアフガニスタンからの難民も受け入れた。一時的であるにせよ、政治的な背景があるにせよ、これもコロンビア人気質の歓待性と関係があるのではないかと強引だけれどもそう感じた。

## 見た目

コロンビア人は「見た目」を気にする、というか見た目でモノの基準を図る傾向が強いと感じている。すなわち、綺麗なモノは良い、汚いモノは悪い。自分のことが、他からみたらどう映るか、見えるかというのは日本人以上かもしれない。日本人は「世間体・世間様」が幅をきかし、一応の行動基準になっている。以前「大きいことは良いことだ」というコマーシャルがあったことを思い出した。1967年(昭和43年)森永エール(Yell)チョコレート<sup>(3)</sup>の宣伝だった。作曲家・指揮者の山本直純氏がチョコレートを持って指揮をして、大勢の人たちが「大きいことはいいことだ！おいしいことはいいことだ！」と歌っているCMだ。大きい＝良いというのは、あの「舌切り雀」の欲の深いおばあさんと同じ発想だと思った。

## \*おしゃれ

コロンビア人は男女とも「おしゃれ」にこだわる（もちろん社会階層にもよる）。「おしゃれ度」はどういう具合に調査するのかと考えていたら、興味深い資料を見つけた。「コロンビア人はラテンアメリカの中で一番のおしゃれで信仰心が篤い」というラジオ局が調べたデータがあった。主要都市（ボゴタ、メデジン、バランキージャ、カリ、ブカラマンガ、ペレイラ）の消費者に対するアンケート調査だ。

それによると「衣」が生活で一番大事だと答えたのはコロンビア人の98%もいる（ラテンアメリカの平均が65%）。鏡を見て自分を映すのが好きだというのは、コロンビア人82%（ラテンアメリカ71%）。自分の容姿に自信があるというのは、コロンビア98%（ラテンアメリカ82%）。自分を魅力的だと思うのは、コロンビア68%（ラテンアメリカ58%）。また、容姿とは関係ないが、家庭での物事を決める基準は子供たちの嗜好によることが多いというのは、コロンビアでは93%（ラテンアメリカでは53%）だそうだ。「子供カワイイ」が際立っている。<sup>(3)</sup>

## \*整形手術

外見重視というやはり整形手術が関係していると思い、調べてみると、件数はやはり人口の関係上中国や米国が上位をしめており、日本が世界4番目、コロンビアは8番目である。<sup>(4)</sup>が、人口千人あたりの美容整形手術の件数で見ると、コロンビアは5番目で、日本は9番目であり、ちなみに中国は24番目になっている。整形といっても様々だが、注目はブラジルが件数も頻度も、それぞれ第2番目と第3番目で整形大国ということだ。

## 形式主義

見た目が大事ということは形式を重視することに繋がる。コロンビアでは人だけではなく、いろいろところで「形」を重視する。「この現象はまさに我々の民主主義体制の中にあっても見られる。司法や宗教はじめ専門分野の知識上でも、それぞれの本質より外部の形式、例えば、手続きでの書類、シンボルマーク、儀式や証明書など、中身より形の方に優位性をおいている」<sup>(5)</sup>

形式主義の長所・短所というのは様々であるが、形さえ整えておけば良いのだというのが長所だとすると、条件が揃わなくても形を整えなければならないのが短所ということになろう。先日の空手道の県大会での話である。審判として参加したのだが、県連盟（バージェ県空手道連盟）から審判全員に高品質マスク「N-95」と携帯用のアルコールが配布された。「連盟も気前がいいね。さすが衛生対策をしっかり考えている証拠だ」と感心した。「さあ、審判の皆さん、写真とりますよ、ちゃんとマスクして、手にはアルコール消毒スプレー持ってね！」とにっこり、ポーズ。写真を取り終わったら、「ハイ、回収！」。全員「???」となった。国や県庁に対する県連盟のみごとな「形式主義」であった。

妙なところにこだわり、賢く抜け目なさを出すのがこの国の流儀かもしれない。

## [註]

- (1) Germán Puyana García, *Cómo somos Los Colombianos*, Panamericana, 2005: 96.
- (2) Germán Puyana García:97.
- (3) カラコル・ラジオ 2005年3月2日, [https://caracol.com.co/radio/2005/03/02/entretencion/1109755200\\_157022.html](https://caracol.com.co/radio/2005/03/02/entretencion/1109755200_157022.html).
- (4) <http://honkawa2.sakura.ne.jp/2485.html> (美容整形の国別ランキング2011) .
- (5) Germán Puyana García: 115.